

学位論文審査の結果の要旨

北原かおり

本研究は、長井系品種の有用特性、おもに花の形態と花色素の分析、および3品種（‘爪紅’、‘三淵の流’、‘薄紅’）の後代植物における遺伝学的解析を試みたものである。その結果、調査した55品種の体細胞染色体数は、すべて $2n=24$ の二倍体であった。花被片のアントシアニン分析では、6種類（A1～A6）の主要アントシアニンと1種類（A7:Violanin）の微量アントシアニンが同定できた。このうち、A1、A3およびA4の完全同定は初めてである。また、アントシアニン組成による類別は4パターンに分けられた。一方、長井系3品種の自然交配から得られた後代植物は、形態的変異に富み、幾つかのグループに類別できた。さらに、後代植物の花色素分析では、8種類のパターンに分けられ、このうち2つのパターンは長井系に独特なViolanin(A7)が主要型であった。さらに矮性個体や斑入り個体も出現した。これらの知見は、長井系ハナショウブが他の品種群では見られない独特な集団であることを明らかにしたもので、ハナショウブの育種に大きく寄与するものである。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。